



KQB2 Series／製品個別注意事項

ご使用の前に必ずお読みください。

安全上のご注意につきましてはP.11、管継手&チューブ／共通注意事項につきましてはP.14～18をご確認ください。

選定

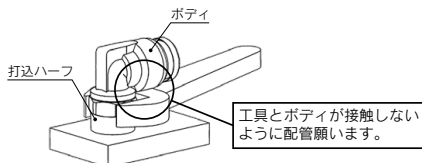
⚠ 注意

- ①サージ圧は最高使用圧力以下に抑えてご使用ください。
サージ圧が最高使用圧力を超えるとチューブ抜けの発生や、継手、チューブの破損の原因となります。
- ②温度変化が激しい流体および環境で、フッ素樹脂チューブを使用される場合はチューブ変形により、気密漏れやチューブ抜けの原因となるのでインナスリーブをご使用ください。
- ③KQB2シリーズの発塵量は使用条件、使用環境により異なりますので、機械、装置への影響を懸念される場合は、実機による発塵量をご確認の上ご使用ください。
KQB2シリーズは、内圧の変化により構成部品が揺動し、それにより発塵する可能性があります。またエルボユニオン、両口チーズユニオン、ロングエルボユニオンにおいては締結後の位置決め回転により発塵する可能性があります。

取付

⚠ 注意

- ①配管施工時、締付工具を打込ハーフの六角面に対して、水平に廻して頂き、ボディにモーメントなどの負荷がかからないようお願いいたします。
工具とボディが接触した場合、打込ハーフ抜けの原因となります。



- ②エルボ、チーズ、ユニオンワイ、異径チーズ、異径ユニオンワイは、取付穴にて位置を固定してご使用ください。
固定して使用しないと、製品の自重により引っ張りやモーメント荷重などが発生し漏れや破損の原因となります。
- ③エルボユニオン、両口チーズユニオン、ロングエルボユニオンは締結後、位置決め程度の回転は可能ですが、回転しながらの使用はできません。
磨耗による使用流体への金属粉の混入や、継手破損の原因となります。
- ④接続チューブが揺動、もしくは回転するような使用はしないでください。
継手破損の原因となります。特に打込ハーフ付製品の場合は、打込ハーフ抜けの原因となります。

チューブの着脱操作

⚠ 注意

- ①チューブの装着
 - 1) KQB2シリーズはグリースを使用していません。そのため、チューブ装着時の挿入力が大きくなります。特に、ポリウレタンチューブは軟質のため挿入時、チューブが折れてしまう場合があります。チューブの根本を持ち、突き当たり感があるまで、ゆっくりと確実に差し込んでください。チューブ挿入長さの目安は、外形寸法図のM寸法を参考にしてください。
- ②チューブの離脱
 - 1) 高温で使用したチューブや長期間使用したチューブは、外径が拡大し、ワンタッチ管継手に再装着できなくなる場合があります。装着できないチューブは廃棄し、新しいチューブに交換してください。

ねじ管継手の適正締付トルク

⚠ 注意

- ①ねじ込みの際は下表の適正締付トルクで締込んでください。目安として手締め後、工具で2、3回転に相当します。
適正トルク以上で締込んだ場合、継手破損の原因となります。特に打込ハーフ付製品の場合は、打込ハーフ抜けの原因となります。

Rねじ・NPTねじ 適正締付トルク

接続ねじサイズ	適正締付トルク N・m
NPT、R1/8	3～5
NPT、R1/4	8～12
NPT、R3/8	15～20
NPT、R1/2	20～25

Gねじ 適正締付トルク

接続ねじサイズ	適正締付トルク N・m
G1/8	2.9～3.2
G1/4	5.7～6.3
G3/8	9.5～10.5
G1/2	14.3～15.8

KQ2

KQB2

KS

KX

KM

KF

M

H/DL

L/LL

KC

KK

KK130

DM

KDM

KB

KR

KA

KQG2

KQ2-G

KG

KFG2

MS

KF□

KQ□

KQ

X1744

KKA

KP

LQ

MQR

T

IDK